

# Saijodan

広島城北高等学校サッカー一部OB会

広島市東区戸坂城山町 1-3 広島城北学園内 〒732-0015

TEL 082-229-0111 FAX 082-229-0112



## 42 回生 岩瀬 公典

### 『夢』

最上段OBの皆様こんにちは。42回生の岩瀬公典と申します。

私は現在広島市立大州中学校の保健体育科教員として勤務しており、念願のサッカー部の顧問として日々勉強をさせていただいています。仕事柄、よく宮本先生、岩井先生、高山先生にお会いすることができ、卒業して12年たった今もお世話になり続けています。この度はこのような機会をいただき光栄です。今回は夢について書き記していると思うので宜しく願います。かなり赤裸々に記していきますので、なかなか勇気がいるのですが・・・。

私は、中学の頃から現職である中学校の保健体育科教員になりたいと強く希望していました。中学時代公立中学校に在学していた私は、成績優秀で(笑)、サッカー部でもゴールキーパーとしてレギュラー、友達にも恵まれ、クラスの中では先生方から信頼される(?)学級委員長として、とても有意義な毎日を送っていました。そして、夢をかなえるためにサッカーの強豪で、進学校でもある広島城北高等学校への進学を希望し、入学することができました。

順風満帆で入学した私でしたが、入学して早々現実を目の当たりにしました。これまで得意意識のあった勉強は広島城北高校の中では優秀な友人の中に囲まれ普通、いやそれ以下の状態となってしまうました。また、中学時代にはずっとレギュラーで、自信のあったゴールキーパーの能力も先輩に全く及ばず、自信がなくなり思い通りのプレイもできなくなっていました。正直最上段で過ごした3年間は私の人生の中でかなり辛い3年間になっていたと思います。現在教育界でよく言われている自己顕示欲や、自己有用感は無の状態で続きました。1年生の時、何度か親に学校を辞めてしまいたいと話したことがあるのがとても

懐かしいです。(必死に止めてくれた親に、今ほとても感謝しています。)

しかし、2年生からは夢を持ち続けました。自分はずな城北に入ったのか、なぜ試合に出られないサッカー部に所属し毎日部活に出続けているのか、それは教員になるためだ、と思い続けました。きっかけは周りの仲間、また先生方が夢を持っていたからだと思えます。宮本先生もよくおっしゃっていました。『俺は絶対に全国大会に行く』と。その言葉に感化され、私自身も『絶対に教員になる』と思い続けました。そのためにはサッカー部でも頑張り続けなければならぬ。結果3年間ベンチでしたが、常に自分に足りないものは何かを考え続けることができました。1つ上の松本先輩にも朝練に付き合ってもらい、どこを直せばよいのかよく聞いたものです。(侑士さん、その節は本当にありがとうございました!) その経験もあり、現在試合に出られない生徒の気持ちなども、本当によくわかるようになりました。

卒業するときに、『教員に絶対になりたいです』と体育研究室の前で宮本先生に話したとき、『夢をしっかりと思い続けたら叶う。だから頑張れ』と言われたことは今でも忘れられません。

大学に入学し、全国大会3位の強豪校でしたが、2年間はプレイヤー、あと2年間はスタッフとして食らいつき、そこでもつらい思いをたくさんし、大学卒業後も非常勤講師にアルバイトと休みのない日々を過ごし、高校の仲間たちがどんどん出世していくのを横目に、それに耐えることができたのは、すべて3年間勉強させていただいた最上段に原点があると思えます。

今私は幸せです。妻子にも恵まれ、さらに夢である『保健体育科教員』にもようやく3年前に正式に採用されることができました。まだまだ未熟な私ですが、夢を叶え、このような気持ちで毎日過ごすことができるのは、最上段で出会った仲間、先生方、そして最上段スピリットのおかげです。最上段で教えられたことは、夢を思い続ける、初心を忘れないということだと思っています。現在私には新たな夢があります。最上段で教えられたことを胸に、その夢に向かって突き進んでい

うと思っています。まとまりのない文章で大変申し訳ありません、最後まで目を通していただき、ありがとうございました。

## 52 回生 永田 周

### 『最上段で学んだこと』

はじめまして。52回生の永田周と申します。この度は、OB会報誌を執筆させていただきましたことを大変嬉しく感じるとともに、このような機会を与えてくださった先生方に感謝しています。拙い文章ですが最後まで読んでいただくと幸いです。

近況ですが、私は東京理科大学2年生理学部応用数学科に所属しています。大学では、日々レポートを書かされています。その成果もあり、それなりに文章書けるやろなんて思い書き始めましたが、広島城北サッカー部のOB会報誌というところで、偉大な先輩方もこの文章を読むのだと今更ながらに気づき、荷の重さを感じつつ、大事なことを書かないと、と思いつながらなかなか手が進まないのが率直な感想です(笑)

そんな私の話はさておき、今回このOB会報誌には、私がこの最上段で一番学んだことについて綴りたいと思います。

結論から言ってしまうと、それは「あきらめない心」です。私たちの代は、総体の県ベスト4がけの試合で皆実に0対5で完敗して終わりました。でも、決して高校サッカーに後悔はありません。これは、中学の時の引退試合においても一緒でした。中学の時は、顧問の先生が、「俺は試合に負けてから後悔する奴の気持ちかわからん」、なんておっしゃっていて、無理やり底上げされていた感じはありますが、中学高校の試合と共通して、全力で相手に立ち向かっていたことは、自信をもって言うことができます。前述した0対5で負けた試合でも、どんなに押し込まれ、たとえ0対3で負けている状況で、

## 50 回生 岸本 行成

## 『先ずは、自分から』

くじけそうな状況でも、ライノスの応援団のこれからだぞと言わんばかりの声援に加えて、ピッチ上の後輩たちですら、まだまだいけるぞ、と言って早くリスタートしようとしている姿に、もちろん私自身折れてたまるかと思つたと同時に、みんなが闘志を見せながら戦っていたと確信できま

す。今考えれば本当に、図太い奴らだなあなんて思つたりもしますが、最上段でこんなに素晴らしい仲間に出会えた、成長できたこと、そしてこんな仲間たちとともに最後の最後まで一緒に戦えた、それでも太刀打ちできない試合だったからこそ、負けても後悔はありませんでした。後輩の皆さんにはもちろんのことながら、私たちの代の結果を超えていけるようになってほしいです。それだけではなく、チームが1つの目標に向かって挑める高校サッカーに後悔してほしくありません。卒業してから、みんなが集まったときにあの時ああしとけばよかったという話ではなく、試合のビデオ見ながら〇〇何やってんだよ、なんて負けた試合ですら楽しく話ができるのも、あきらめずに全力を出して戦っていたからこそできる特権だと思います(笑)。〇

B になってからもそんな話ができるように、また本当に最上段が大好きで、現役の結果が気になるくらい広島城北サッカー部が大大好きになれるように、今を全力で頑張ってください。

最後になりましたが、後輩たちには、高校サッカーというかけがえのない時間をかけがえのない仲間たちと、そして最上段という最高の場で過ごせることに感謝してほしいと思います。私も現役生たちに負けないように広島城北での日々を誇りに熱く戦っていきます!

最後まで読んでいただき、ありがとうございました。

皆さん初めまして。私は五十回生の岸本行成と申します。岡山理科大学教育学部に通う、大学三年生です。私事ではありますが、先日小学校への教育実習を終え、ますます教員になることへの意欲が増している日々この頃でございます。私の紹介はこのぐらいにして、早速本題にうつろうと思います。

私は、所謂「新生」として高校から城北に入学し、高校三年生の総体まで最上段で汗を流しました。(まあ、体育などで引退以降も汗を流してはいましたが・・・笑) 私は、GKをやっていました。身長も低く、身体能力にも恵まれていませんでした。そんな私でも、最終的にはトップチームでベンチではありましたが、背番号1を頂くことができました。これは、決して自慢ではなく、広島城北であるなら「行動すること」でなんとかなる、ということなんです。

高校二年生までは、失礼な言い方をしますが、ライノスで試合どころか、ベンチにさえ入ることでできませんでした。仲間がトップチームで練習している、ライノスで一年生から試合に出ている中、私はボールボーイをしに試合会場に行く。その繰り返しでした。(正直、この頃は岩井先生の事が嫌いでした・・・) ですが二年生になり、ライノスで試合に出ることができるようになり、少しずつ、トップでやりたいという意欲が増していきました。そして、迎えた高校最後の選手権。メンバーを決定する投票の際、私は自分に票を入れることができませんでした。あの時ほど自分を恨んだことはありません。ですが、自分に「自信」が無かったのです。というより、自分に票を入れるという考えすら頭にありませんでした。自分で「自分を信じること」が、

できなかったのです。だから、自信をもつことは難しいかもしれませんが、とても大切なのだという事を学びました。

私は、人として成長しようと思つたら、な

りふり構わず「行動すること」が必要だと思

います。私が、実践することができていたか

は、分かりませんが、ですが、私が「岸本行成」

のことを一番理解していたと思います。自分

を理解した上で、「自分がするべきことは何

なのか。」「その為に、自分出来る事は何な

のか。」を必死に考え、とりあえず自信をも

つて、行動してきました。だから、皆さんも

自ら行動を起こしてみて下さい。そうすれ

ば、何かが見えてくると思います。自信の根

拠なんて無くてもいい。後付けでもいい。何

となくでもいいから、自分が自分を信じてあ

げて下さい。うだうだ悩む前に、半歩でも前

に進みましょう。だって、行動に移さないと

結果は誰にも分からないのだから。「行動す

ること」で「自信」が生まれ、「自信」が生

まれることで、さらに「行動すること」がで

きる。別に良いことをしようとする必要は無

いと思います。たとえ、自分の行動が失敗し

たとしても、経験や一歩を踏み出した勇気が

全く消えて無くなる訳ではありません。その

行動を起こしたという事実は、試合に出ること

やメンバーに入ることよりも大切な事だ

と私は思います。そのような経験は、「一生

涯の宝物」になると思います。

勿論、良い仲間が周りにいるという環境

が、自信を持たせてくれる事もあると思いま

す。だから、仲間を大切にするのは、言わず

もがなですよね。でも、思い返してみると、

これまで多くのOBの方々も、口をそろえて

おっしゃっています。広島城北サッカー部の

環境は、普通じゃないと思います。(水は

けが最悪のポコポコのグラウンドであるこ

とは間違い無いですけどね・・・笑) 何処に

いても、いつも遠くから応援し、HPをつい

ついチェックしてしまうOBの方々。私もOB

Bになり、脈々と続くこの良い伝統は、繫

## 2019初蹴りのお知らせ

初冬の候、益々ご健勝のこととお喜び申し上げます。

毎年恒例の“初蹴り”を開催いたします。

『最上段』で懐かしい仲間たちとともに、笑顔で1年をスタートしましょう!

また、元旦には広島城北サッカー部HPに、宮本監督の決意表明が掲載されます。ご期待ください!

<http://saijodan.com/>

日時 2019年1月3日(木) 11:00 集會  
場所 広島城北学園“最上段グラウンド”

広島城北高校サッカー部OB会  
会長 吉川英司

がっていることを強く感じさせてくれます。このような素敵な環境にあることを、現役生に意識しろと言つても、分からないと思いま

す。OBになった時、初めて気付くのもいい

と思います。私もそうだったのだから。こ

れからも私は、広島城北高校サッカー部を応

援しています。

最後になりましたが、今回OB会報誌を執

筆する機会を頂いた宮本先生には、感謝申し

上げます。そして、最後まで私の拙い文章を

読んで頂いた皆様にも、改めて感謝申し上げ

ます。これからの、広島城北高校サッカー部

の益々のご発展を祈念し、私の文章を終わら

たいと思います。最後にもう一言だけ。

『ありがとう』

行成、今は好きになつてんだよね...? by 岩井

---

※ご家族のみなさんへ：ご本人が、ご入学・ご就職・ご結婚などで不在の場合は、お手数ですが、ご本人までご連絡ください。